

12月例会「紅葉・ミニ門松づくり教室」報告

平成30年12月16日(日)。午前10時～正午、立田山野外保育センター雑草の森。参加者61名(うち会員16名)。雑草の森との共催。

朝からあいにくの雨。それでも沢山のチビッ子が次々と雑草の森にやってきて、今年最後の例会も楽しくにぎやかなものとなりました。

最初にチビッ子代表の開会宣言。藤井会長と雑草の森の緒方センター長の挨拶の後、紙芝居「お正月と門松のはなし」を見ながら、門松の起源や歴史について学びます。

紙芝居の1枚目では、NHKの番組で有名な「チコちゃん」が登場して「みんな、どうしてお正月には門松を飾るの?」とたずねます。ところがチビッ子も大人もシ～ン、返事がありません。2枚目では、チコちゃんに「ポーっと生きてんじゃねえよ!」と叱られてしまい、みんな大爆笑です。

3枚目からが本題。「平安時代の『根引きの松』が門松の起源」「松の大木には神が宿るといわれ、門松を飾って『歳神様(としがみさま)』を迎えるようになった」「江戸時代になると松と一緒に竹を飾るようになり、梅も加えるようになった」「センリョウやマンリョウ、ナンテン、菊、扇子や紅白水引も添えて『めでたさ』アップをしよう」などと、チビッ子には少し難しい話と思われましたが、熱心に紙芝居をみてくれました。チビッ子達の「松はチクチクして魔除けになるのかな」「年神様は『福の神』だ」「センリョウを飾ると『お年玉』がもらえる」といった質問や自由な発想にはビックリでした。

いよいよ工作教室の始まり。幼児の参加者が多いだろうと予想されたので、前日にスタッフが孟宗竹や真竹の鋸引きをして「部材」に加工してあります。

まず、孟宗竹の器(台座)と大・中・小の真竹3本を選んだら、真竹3本をガムテープで縛り、濡らした新聞紙を使って台座に固定。部材を選ぶチビッ子の真剣な表情、親子で力を合わせて真竹3本を縛る様子、チビッ子以上に熱中するお母さんの姿など、はほほえましい光景があちらこちらに見られます。

次は「ミニ扇子づくり」に挑戦。台紙を折り曲げて竹串に固定し、台紙を広げます。「扇子ができた」チビッ子の歓声。更に、赤い実(センリョウ、マンリョウ、ナンテン)、菊の花、松、梅も加えます。「松の向きはこっちでいいかなあ」「菊はもう少し短くしようよ」「帰ったらどこに飾ろうか」と親子の会話も弾みます。最後に、器の胴体に「紅白水引」を貼り付けて、自分だけ、この世に1つだけの「マイ門松」の完成。「できた～!!」と大人もチビッ子も大喜びでした。

正午、「マイ門松」を手に手に、みんなで童謡「お正月」をうたい、記念撮影をして、今年最後の例会を無事に終了しました。

探検隊会員の皆さん、参加者の皆さん、一年間お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願ひします。良い年をお迎えください。

